



日汉  
例解常用熟语谚语  
词典

● 杨诒人 主编 ●

同济大学出版社

# 日 汉 例 解

## 常用熟语谚语词典

|      |       |
|------|-------|
| 主 编  | 杨 诒 人 |
| 日文顾问 | 下泽胜井  |
|      | 村 下 满 |
| 中文顾问 | 罗 可 群 |

|    |     |     |
|----|-----|-----|
| 编者 | 郭存智 | 谢联发 |
|    | 郭崇喜 | 陈 胜 |
|    | 谢济新 | 李 明 |

同济大学出版社

**(沪)新登字 204 号**

**责任编辑 谢克宽**

**封面设计 王肖生**

---

本词典的出版得到日本国际交流  
基金日语国际中心的资助，特此表  
示衷心的感谢。

---

**日 汉 例 解**  
**常用熟语谚语词典**

**杨础人 主编**

**同济大学出版社出版**

(上海四平路1239号)

---

本词典在香港由同济大学出版社  
与香港商务合作出版香港版

---

新华书店上海发行所发行  
常熟市印刷二厂印刷

开本：850×1168 1/32 印张：26 字数：1110 千字

1991年11月 第一版 1991年11月 第一次印刷

印数 1—2600 定价：28.40 元

ISBN 7-5608-0524-8/H·88

## 前 言

日语之熟语(日本称之为惯用句)、谚语颇多,使用率高,涉及面广。日本人于日常生活中用之,讲演、广播、电视中用之,报刊、杂志、小说中亦用之,可谓屡见不鲜。然其意却非由所组成单词之义拼凑可得,其用法亦稍异于他词。于外国人而言,理解不易,掌握更难。

在中国,不乏普通日汉辞典,而日语熟语谚语类专门辞书所见不多。纵有数册,或所收者词条不多,或缺少例句可证。遇此类词语,往往求助于普通辞书。然普通辞书内容有限,即便有之,或查找困难,或用例甚少,使学习、使用日语者颇感不便。

有鉴于此,我等中日两国十位同仁,费时数载,于浩瀚之日文资料中筛选常用者凡五千余条,每条配以若干例句,编成是书。

编纂本词典时,曾参考下列诸书,并从中摘引例句。为省出篇幅,多收例句,凡从下列诸书中摘引之例句,均未一一注明出处,特作说明,并向各书编著者致谢意,恳请谅解。

《日本国语大辞典》 尚学图书编,小学馆 1973 年版

《故事・俗信 ことわざ大辞典》 尚学图书编,小学馆 1982 年版

《学研国语大辞典》 金田一春彦・池田弥三郎编,学习研究社 1978 年版

《岩波日中辞典》 折敷濑兴・仓石武四郎编,岩波书店 1983 年版

《ことわざ辞典》 延原政行编,金园社 1983 年版

《故事ことわざ辞典》 宫腰贤编,旺文社 1983 年版

《暮らしの中の国語慣用句辞典》 吉田精一・药师寺章明编,集英社 1977 年版

《故事ことわざ辞典》 望月久贵监修,千曲秀出版社 1976 年版

《必携惯用句辞典》 仓持保男・阪田雪子编,三省堂 1982 年版

《日中ことわざ对照集》 金丸邦三主编,中国俗文学研究会 1982 年版

《慣用句の意味と用法》 宫地裕编,明治书院 1982 年版

《日语成语惯用语辞典》 徐昌木编,商务印书馆香港分馆 1982 年版

《日语谚语成语辞典》 香港外语学习社印行

《日语惯用语例解手册》(人体词汇惯用语专辑) 王宏编,上海译文出版社 1983 年版

《日汉辞典》 陈涛主编,商务印书馆 1959 年版

《新日汉辞典》 大连外国语学院《新日汉辞典》编写组编,辽宁人民出版社 1980 年版

此书系授课之余仓促编就,错谬难免,亟望广大读者和同行先学诸君不吝赐教。

杨拙人 识

1988年仲夏

于广州外国语学院

## 用法说明

### 一、词条

词条按日语五十音顺排列,以便查阅;词条中汉字均注假名,以便阅读。

### 二、释义

词条后均有中文释义。如同一词条有多种不同释义,则分别冠以①②③等予以区别;如同一种释义有多种表达方式,其间用分号“;”隔开。

如需注明该词条之用法、比喻、形容等含义时,则均注于释义后之括号内。

### 三、例句与译文

每一种释义后均配以若干日文例句及其中文译文。例句前均冠以“☆”号;日文与中文译文之间用“/”隔开。例句有两种译文者,后者写于括号内。

例句中出现之难读汉字亦尽量标注假名,以便阅读。

### 四、类义词与反义词

日文词条如有类义词和反义词,则尽量分别列于该词条正文后。类义词在前,反义词列于后,分别冠以[类]、[反]等字号,以示区别。

类义词与反义词条内之汉字原则上均注假名,以便阅读。但正文词条内出现过之汉字,且读音相同时,则假名从略;如有两条或两条以上类义词时,则前条中凡已出现过的相同读音的汉字之假名从略;反义词亦如此。

类义词项内,在类义词条前之数码表示该类义词与正文词条之该项义为类义。例:

手をくだす……[类]①手をおろす

表示该类义词与正文词条之第①义为类义。

类义词条后之数码表示该类义词之该项义与正文词条为类义。例:

脈を取る……[类]脈を見る②

表示正文词条之义与类义词条之第②义为类义。

类义词与反义词有两条或两条以上时,则类义词之间及反义词之间均用句号“。”隔开。

无论类义词抑或同义词,均冠[类]字附之,未予区分。凡所列类义词、反义词为两条或两条以上者,均分别按日语五十音顺排列。

五、“→”为参见符号,意为该符号前之词条之意义用法可参见该符号后之词条。

## 目 录

用 法 说 明

五十音索引

词 典 正 文

## 五十音索引

|       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| あ 1   | い 49  | う 88  | え 110 | お 118 |
| か 161 | き 213 | く 245 | け 271 | こ 282 |
| さ 320 | し 335 | す 379 | せ 394 | そ 409 |
| た 421 | ち 447 | つ 464 | て 475 | と 501 |
| な 525 | に 546 | ぬ 555 | ね 560 | の 572 |
| は 577 | ひ 619 | ふ 644 | へ 654 | ほ 659 |
| ま 668 | み 677 | む 705 | め 717 | も 746 |
| や 760 |       | ゆ 778 |       | よ 784 |
| ら 799 | り 801 | る 806 | れ 807 | ろ 809 |
| わ 811 |       |       |       | を     |
| ん     |       |       |       |       |

# あ

**ああ言えばこう言う** 顶撞;顶嘴;明明是东,偏说是西。☆まったくこの子にはあきれたね。ああ言えばこう言って、少しも人の言うことを聞こうとしないのだから/这个孩子真糟糕,总是顶嘴,一点都不听话。☆ああ言えばこう言うし、こう言えばああ言うし、どこまでも人に逆う/你说东,他说西,专门顶撞。

[类]山と言えは川。

**愛嬌あいきようがこぼれる** 笑容可掬;十分可爱;很有魅力。☆愛嬌のこぼれたパーのマダムの表情の中には、いまひとつの計算もくり込まれていないとは言えない/酒吧老板娘那笑容可掬的表情中,不能说没有包含另一层用意。☆笑う時はその眼元に一種の愛嬌がこぼれる/微笑时眼神显得很有魅力。

**愛嬌あいきようを振りまく** (对谁都)笑容可掬;笑容满面(地表示好感)。☆いつもは威張っているあの男が、今度の選挙に立候補するためか、今日はやたらに愛嬌を振りまいている/他平日总是摆架子,可今天不管对谁都笑容可掬,大概是因为要参加这次竞选吧。☆開店当日の店主は客に愛嬌を振りまいている/开张那一天,商店老板对顾客笑脸相迎。

**愛想あいそがいい** 和蔼可亲;会说话;会应

酬。☆彼は誰に対しても愛想がいい/他对谁都和蔼可亲。☆自分は、皆に愛想がいいかわりに、「友情」というものを一度も実感したことがない/虽然我对大家都和蔼可亲,可从未感受到什么“友谊”。☆近頃は、面接試験で、愛想がよく、しかも機転のきく応答のできる女性が少ない/虽然我对大家和蔼可亲,可从未感受到什么“友谊”。☆近頃は、面接試験の妇女中,会应酬、能对答如流的机灵人少了。☆煙草屋の娘は愛想がいいことで近隣に知られている/邻近的人都知道香烟店的姑娘很会应酬。

**愛想あいそが尽きる** 厌烦;嫌恶。☆彼のだらしなさにはすっかり愛想が尽きた/他那吊儿郎当的劲儿,实在令人厌烦透了。☆分からずやのあの子には、もう愛想が尽きた/对那个不懂事的孩子,我已经受够了。

[类]愛想も小想も尽き果てる。

**愛想尽あいそづかしも金かねから起おきる** 钱了缘分尽。☆恋愛結婚のあのカップルも夫の働きがいのなさに今は離婚しているそうだ。愛想尽かしも金から起きると言われるからな/听说自由恋爱结婚的那一对因男方不会挣钱而离婚了。这正如人们所说的钱了缘分尽啊!☆愛想尽かしも金から起きるといふことで、田中君は鈴木君と絶交したそうだ。ど

うやら借金の返済をめぐるのトラブルかららしい/俗云钱了 缘份尽,据说田中君和铃木君已绝交了。大概是由于在还债问题上产生了一些纠葛的缘故。

[类]金の切れ目が縁の切れ目。夫婦喧嘩も、無いから起こる。

愛想も小想も尽き果てる 厌恶之极;极其讨厌。☆姉に生まれているのにその卑怯さに、実に愛想も小想も尽き果てた/身为姐姐,居然如此卑鄙,实在令人厌恶之极。☆ああ薄情なと思ったら、愛想も小想も尽き果てた/一想到他如此薄情寡义,实在令人厌恶之极。☆「あーあ、世の女たちが、特売場で人を押しのけて品物をあさる姿には、愛想が尽きるよ」「何言ってるの。男が酔っぱらって蛮声を張り上げ、クダまいてる姿こそ、愛想も小想も尽き果てるわ」/「哎呀,女人们在特价柜台前挤开别人抢购东西的那种德行,实在令人讨厌啊。」「你说什么呀!男人喝醉了酒那大喊大叫、撒酒疯的样子才真正让人讨厌之极呢!」

[类]愛想も興も尽き果てる。

愛想を尽かす 厌恶;唾弃;嫌弃。☆わがままな彼は女房にまで愛想を尽かされた/由于过份任性,连老婆都嫌弃他了。☆自分が再々約束を守らないので、彼に愛想を尽かされるのも無理はない/我常爽约,难怪他不理我了。

開いた口が塞がらない (吓得)目瞪口呆;呆若木鸡;瞠目结舌。☆彼の

ずうずうしさには開いた口が塞がらない/他那厚颜无耻的态度简直令人目瞪口呆。☆湯の中に切り花を挿すというあまりのばかさかげんに、開いた口が塞がらなかった/象他那种在热水里插鲜花的愚蠢之举简直令人瞠目结舌。☆「三打席連続ホームランとはねえ。それも三打席目なんか、敬遠の高いボールを飛びついて打ったんだからなあ」「相手のピッチャーも、開いた口が塞がらないって顔だったよ」/「连着三名击球手都打了本垒打,真厉害呀!而且第三击球手是扑过去挥棒击中那投手特意投出的高球的啊。」「连对方的投手都被他们打得瞠目结舌。」

[类]呆氣に取られる。

開いた口へ牡丹餅 喜出望外;福自天降;天上掉下馅饼来。☆ボーナスで海外旅行の夫は父親から又小遣いも貰い、開いた口へ牡丹餅と喜び勇んで出発した/领到奖金正准备去外国旅行的丈夫又从父亲处得到一笔钱,不禁喜出望外,雀跃地出发了。☆T大学合格の知らせに、祝福にかけつけた恋人を前にして、山田君は開いた口を牡丹餅の表情で喜んでいる/山田君考上了T大学,在赶来祝贺的女朋友面前,他高兴得不得了,露出满脸福自天降的神气。

[类]棚から牡丹餅。寝ていて餅。相槌を打つ 帮腔;点头称是;随声附和;接话碴儿。☆彼は私の話をいちいち相槌を打ちながら聞いた/

他听我讲话时连连点头称是。☆ひどく熱心に歌舞伎を讃美するものだから、つい老人を喜ばすつもりで相隨を打った/因为老人满口称赞那歌舞伎,为了让他高兴,便接着话碴儿随声附和。☆「君、そう相隨を打ってばかりいないで、少しは自分の意見も聞かせてくれよ」「いいえ、もう、部長のお説がいちいちごもっともなものですから。はい」/“你不要总是随声附和,多少也得讲讲自己的意见呀。”“不,我没有什么意见,因为部长说的都很对。”

[类] 調子を合わせる。

**相手変われど主変わらず** 客变主不变; 换汤不换药。☆「開票結果は、やっぱり現職知事の四選か。野党は誰を立ててもだめだね」「全く。相手変われど主変わらずさ。おもしろくないね」/“开票的结果,还是现任知事第四次当选。在野党推举哪个候选人都行啊!”“是呀,客变主不变嘛,真没意思。”

**相手のない喧嘩は出来ない** 一个巴掌拍不响; 一个碗不响, 两个碗叮当。☆まさか相手のない喧嘩も出来ないから、プイと出てきてしまったこちらに、妻も困っていることだろうよ/一个巴掌拍不响, 妻子也为我满脸不高兴的样子而感到为难。☆相手のない喧嘩は出来ねえって事知らんのか。お前が怒っている原因は俺が作ったのではないよ/一个碗不响, 两个碗叮当, 难道你不知道吗? 惹你发火也不光是我一个人的原因。

[类] 一人喧嘩はならぬ。

**合の手を入れる** 喝彩; 叫好; 助兴。

☆聴衆が合の手を入れるのに氣をよくして、演説に一段と熱が入る/由于听众叫好, 使讲演者非常高兴, 演讲得更加起劲。☆共同の仕事の途中、折々大きな声で合の手を入れている/在共同工作过程中, 大家常常呐喊助兴。

**合間を縫う** 抽空; 利用空隙; 见缝插针。☆仕事の合間を縫って、二か月ぶりに床屋へ行ってきた/工作中抽空去了趟两个月来未曾光顾过的理发店。☆車の流れがとぎれた合間を縫って、やっと反対側にわたった/趁来往车辆中断的空隙, 好容易才横穿到马路对面。

**逢うは別れの始め** 相逢必有别离时; 有聚必有散。☆逢うは別れの始めといわれますが、やはりお別れはつらいことです/虽说相逢必有别离时, 然而离别的滋味还是苦涩的。☆会者定離とは古い言い方で「逢うは別れの始め」のことです/“会者定离”是一句古语, 其意为有聚必有散。

[类] 合わせ物は離れ物。

**仰いで唾を吐く** 仰天而唾; 自作自受; 害人反害己。☆悪い者が善い者を害そうとするのは、天を仰いで唾を吐くようなもので、結局、害は自分にかえてくるということです/坏人想陷害好人, 犹如仰天而唾, 结果是自作自受, 反而害了自己。

[类] 天を仰いで唾する。

**青筋を立てる** (气得) 青筋暴露; 大发雷霆。☆自分の悪口をいわれたので、山田は青筋を立てて怒った/因有人说自己的坏话, 直气得山田头上的青筋都暴出来了。☆「早く計画通りすめなさい」社長が青筋を立てて申し付けた/社長大发雷霆道: “赶紧给我按计划行事!” ☆「ちょっとくらい私が文句言っただけからって、そんなに青筋を立てて怒ることないでしょ。男はおおらかな気持ちでいなくっちゃ」その、その、人を説教するような口調がそもそも気に入らん! 女房のくせに!」/“我只不过稍微发了几句牢骚, 你用不着这样大发雷霆呀! 男人应该胸襟开阔才行。” “你、你、一个女人竟敢教训我, 去你的吧!”

[类] 青筋を張る。

**青菜に塩** 无精打采; 沮丧; 垂头丧气; 萎靡不振(原指青菜拌盐鳶了)。☆彼は入社試験に落ちて、青菜に塩の状態だ/他因为在招工考试中考落榜而整天无精打采。☆旅行中金を落してしまった彼は青菜に塩のようになって帰ってきた/旅途中丢了钱, 他只好沮丧地回了家。☆あしたのハイキングはとりやめ、とおかあさんに言われて、子どもたちは青菜に塩の風情だ/母亲说明天不去远足, 孩子们一个个都无精打采了。

[类] 青菜を湯につけたよう。

**癪り食う** 遭受…的影响; 遭受…的打击。☆閉山の煽り食って、町の人口が激減した/由于遭到封

閉矿山的影响, 镇上的人口急剧减少。☆爆風の煽り食って倒れた/被爆炸的气浪刮倒了。☆円高の煽り食って経営が苦しい/因受到日元升值的影响而经营艰难。

**赤い着物を着る** 坐牢; 吃官司; 锒铛入狱(一般指被判重刑)。☆自分のしたことは自分で責任を負います…赤い着物でも何でも着ます/一人做事一人当, …即使吃官司坐牢也在所不辞。☆子供の折から手癖が悪く、十五の年に懲役所に行つて、出所後再犯して今度は赤い着物を着た/从小就偷东西, 十五岁那年进过一次班房, 出来后依然贼性不改, 这一次被判重刑锒铛入狱。[类] 赤い仕着せを着る。

**垢が抜ける** ①变得风雅; 时髦; 潇洒。☆東京で大学生活をするうちに、あの子ども垢が抜けてきたね/那个姑娘在东京读大学期间, 变得时髦了。☆田舎育ちながらA君は洒脱で垢が抜けている/A君虽是个乡下人, 可也挺洒脱, 颇时髦。②解除嫌疑; 污名得以洗刷。☆いつまでも吉三は垢が抜けられまい/吉三的污名永远也洗刷不了吧。

**足搔きがつかない** → 足搔きが取れない

**足搔きが取れない** 进退维谷; 一筹莫展。☆泥沼に落込んだように、足搔きが取れない/犹如陷于泥潭之中, 进退两难。☆彼は借金でどうにも足搔きが取れない/他负了一身债, 弄得一筹莫展。☆何とかしたいと思っても、この不景気で

は足搔きが取れない/值此经济萧条之际,无论想何办法均无济于事,一筹莫展。☆妻が病気の上に、子どもが小さく、足搔きが取れない/妻子生病,孩子又小,弄得他一筹莫展。

[类]足搔きが見つからない。

赤子の手を捻じるよう→赤子の手を捻るよう。

赤子の手を捻るよう 轻而易举;易如反掌;不费吹灰之力。☆今日の試合は相手が弱過ぎて、赤子の手を捻るようなものだった/今天的比赛因对手水平太低,轻而易举地就赢了。☆「今年の学生横綱は強いね」「幕内とやったらどっちが勝つだろう」「プロの力を知らないの?赤子の手を捻るようにやられちゃうよ」/“本年度学生中的横纲相扑力士真厉害。”“要是和专业相扑运动员的一级力士比赛的话,哪个赢?”“难道你不知道专业相扑力士的厉害?当然不费吹灰之力即可打败学生罗。”☆商売にうとい人をだまして、資金を出させるのは赤子の手を捻るようなものだ/哄骗那些不谙生意经的人拿出资金来,那真是不费吹灰之力。☆君にやってもらえば、このことは赤子の手を捻るように簡単だと思うが…/此事如能请你去办的话,当然是轻而易举、马到成功,不过…。

[类]赤子の腕を捻るよう。赤子の手を捻じるよう。

証を立てる 证明清白无辜。☆Bとは全く切れたという証を立てるた

めにも証拠が必要だ/就算是为了证明已和B完全脱离关系,也要拿出证据来。☆自ら真犯人をつきとめ、身の証を立てた/亲自去查明真正的犯人,证实了自身的清白。

[类]証が立つ。明かりが立つ。

赤信号が付く 出现危机;发生紧急情况。☆空梅雨に終わり、東京の水不足に赤信号が付くのは必至だ/梅雨季节不下雨,东京肯定会出现用水紧张的危机。

赤恥を掻く 当众出丑;丢人现眼。

☆みんな正装をして来ているのに、私だけ平服でとんだ赤恥を掻いた/大家都穿着礼服,就我一个人穿便服来,弄得我当众出了个大丑。☆私は、何も活字にまでして、お前に赤恥を掻かされなければならぬようなことをした覚えはないよ/我可没有干过什么值得你非得发表文章让我丢人现眼的事呀。

吾が仏尊し 敝帚自珍。☆「だってお前さんのようにしている人を、女は好くものだから、わたしやあ心配さ」「へん、吾が仏尊しという奴だ」/“不过,象你这样做的人,女人是会喜欢的,我可对你有些担心。”“哼!真是个敝帚自珍的家伙。”☆「吾が仏尊し」とばかり、任された他人の美田はほったらかして、自分のやせた田の育苗に精を出していた/真是敝帚自珍,他人委托的良田弃之不顾,而只管给自己那贫脊之地育苗。

飽きが来る 腻烦;厌倦。☆こういう派手な柄は、初めのうちはい

が、その内に飽きが来ると思う/ 这样花哨的花样刚开始时还可以, 慢慢就会使人感到腻烦。☆それはもと、社長室にかかかていて、いつまでも飽きの来ない絵であった/ 那幅画原来挂在总经理室, 使人百看不厌。☆いつも同じでは飽きが来る/ 老是一个样就会让人腻烦。☆彼と話をしているといつまでも飽が来ない/ 跟他交谈, 什么时候都不会感到厌倦。

**秋風が立つ** 爱情淡薄。☆交際が長すぎたせいか、あの二人の間には、秋風が立ち始めたようだ/ 或许是由于相处太久的缘故吧, 那两个人的感情似乎淡薄起来了。☆「あのカップル、相変わらずアツアツかい? 本社へ来たのは久しぶりだけど」「それが、最近どうやら秋風が立ち始めたらしいよ。近頃昼飯も別々だし」「“那对情侣还那么火热吗? 他们好久没来总公司啦。”“他们的爱情最近似乎淡薄起来了, 连午饭都不在一块儿吃了。”

[类] 秋風が吹く。秋を吹かす。熱が冷める。

**空樽は音が高い** 一瓶子醋不响, 半瓶子醋晃荡。☆空樽は音が高い。あのようにがなり立ててはいても、あの男は本当は何も分かっていないのだよ/ 一瓶子醋不响, 半瓶子醋晃荡。别看那个家伙那样瞎嚷嚷, 实际上啥也不懂。☆世に云う評論家という手合いには、空樽は音が高いといわれる輩もいるから、鵜呑みは禁物、もっともそれ

は真の評論者ではないがね/ 社会上所谓的评论家中也有些一瓶子醋不响、半瓶子醋晃荡之辈, 不可轻信。不过, 那号人也不能算是真正的评论家吧。

[类] 浅瀬に仇波。やせ犬は吠える。

**商は牛の涎** 要发财, 慢慢来(喻做生意不可急躁, 要有耐心, 象牛的唾液那样又长又细不会断)。☆商は牛の涎というように、万事は急がないのが大切なのです/ 正如俗云“要发财, 慢慢来”那样, 什么事都不可操之过急。☆商は牛の涎、まあ成果は半年先をみて考えましょう/ 要发财, 慢慢来, 半年以后再考虑利润吧!

**商は数でこなせ** 薄利多销。☆商は数でこなせ、とにかく勤勉にこつこつやるのが商売の秘訣です/ 薄利多销, 要勤勤恳恳, 孜孜不倦的干, 这就是做生意的秘訣。

**秋茄子嫁に食わすな** 秋茄不给媳妇尝(秋天的茄子好吃而不给媳妇吃, 喻婆婆虐待媳妇)。☆秋茄子は嫁に食わすなと言いますが、そんなに秋のナスっておいしいものでしょうか/ 俗话说“秋茄不给媳妇尝”, 秋天的茄子真的那么好吃吗? ☆「秋茄子嫁に食わすな」の譬、嫁と姑の仲の良いのを探すには金ものわらじをはかねばならぬ/ 正如俗话所说的, 秋茄不给媳妇尝, 要找到婆媳关系融洽的人家, 恐怕是踏破铁鞋无觅处的。

[类] 秋茄子嫁に食わすな。

**秋の鹿は首に寄る** 雪后麻雀容易上

套；男人易为女色所迷（原指秋季为鹿的发情期，雄鹿往往会被模倣鹿鸣的笛声所骗）。☆秋の鹿は笛に寄る恋に身を亡ぼした例はたんとある。お前も淑子さんのことばかり考えていたのでは、きっといいことはないぞ/那种男人为女色所迷而丧命的恋爱例子可不少，你一心想着淑子肯定没好结果。☆「かわいそうに山田君は恋に身を滅ぼしたそうです」「恐い、恐い、女は。秋の鹿は笛に寄るとあるから、女には十分気を付けなくちゃ」/“听说山田君为谈恋爱而丧命，真可怜。”“可怕，女人太可怕了。俗话说男人易为女色所迷，所以对女人可要多加小心才行。”

[类]秋の鹿は笛に心を乱す。笛に寄る鹿、火に寄る虫。

**秋の日は釣瓶落し** 秋阳如吊桶，转眼落西山。☆丘にのぼって、まわりの風景に見とれているうちに、秋の日は釣瓶落しに暮れていきました/登上小山岗，被四周的美丽景色所陶醉，不知不觉，秋阳宛如吊桶，转眼间落下了西山。☆知らない内に夕暮になりましたね、秋の日は釣瓶落し。日が暮れるに間がありませんので、今日はこれで*いとま*暇致しましょう/不知不觉已到了日暮时分，真是秋阳如吊桶、转眼落西山。时候不早了，马上就要天黑，今天就此告辞。☆「あれ、いつの間にかこんなに暗くなっちゃった。まだ五時半なのにな」秋の日は釣瓶落しだからね」/“啊！不知不

觉就这么黑了，现在才五点半哪。”

“秋阳如吊桶，转眼落西山嘛。”

[类]秋の日の鈍落とし。

**飽きも飽かれもせず** 如胶似漆（指夫妻恩爱如初，一往情深）。☆飽きも飽かれもせぬ仲を何の恨かしゅうとめ姑がふたりの間をさいてきた/不知有什么仇恨，婆婆一直在离间那如胶似漆的夫妇俩的关系。☆夫に国外への出張命令で、飽きも飽かれもせぬ二人は今悲歎の涙にくれている/由于上头命令丈夫长驻国外，弄得如胶似漆的夫妇俩伤心极了。

**諦めは心の養生** 後悔于事无补；心宽才能体胖。☆過去の事は忘れて元気だしたまえ。諦めは心の養生なりさ。いつまでもよくよく思わずらうのは健康にもよくないよ/过去的事情就让它过去，打起精神来！后悔于事无补，心宽才能体胖。总是这样闷闷不乐会伤身体的。☆諦めは心の養生、今はきっぱりと思い切ることが、君の成長に役立つはずだ/后悔于事无补，干脆死了这条心吧，这对你的成长肯定没坏处。

**商人の空誓文** 商人嘴里没真话。☆分かったもんじゃないよ。あれは商人の空誓文で、本当の元値はさっぱり分からないさ。実際には儲かっているんだ/我那儿知道呀，商人嘴里没真话，实际成本到底要多少根本就不知道，实际上赚钱是肯定的。☆商人の空誓文、とにかく品物を手に入れてからでないと、

安心はできない/商人嘴里没真话，反正东西没到手就放心不下。

**灰汁が強い** 个性太强；太倔；过于执拗。☆今年的新人賞を取った小説は、灰汁が強い文章だが、なかなか迫力のある作品だ/今年获新人奖的小说挺有个性，是颇有气魄的作品。

**灰汁が抜ける** 文雅；潇洒；（待人处事）随和圆通。☆あの人は管理職になったら、上と下からもまれたためか、灰汁が抜けてきた/那个人当了管理干部后，也许是由于在上下左右的周旋中受到了锻炼，处事变得随和圆通了。

[类] **洗皮がむける**。

**悪妻は百年の不作** 娶个坏妻子，倒霉一辈子。☆昔から悪妻は百年の不作と言うことわざがあるから、嫁さんをもらうにはよく見てからもらえよ/常言道，讨个坏妻子，倒霉一辈子。找老婆可得看准了才行啊。☆「悪妻は百年の不作と云うよ」ではあなたと一緒に私の方は百五十年の不作なのかもしれないわよ/「なるほど、似たもの夫婦というからな」/「人家说娶个坏妻子要倒霉一百年。」“可我跟着你过也许要倒霉一百五十年。”“真是一张床不出两样人哪。”☆悪妻は百年の不作、あの女と一緒にでは彼は当分の間税は上がらない/娶个坏妻子，倒霉一辈子。他要和那个女人一起过的话呀，恐怕会被压得连头都抬不起来。

[类] **悪妻は一生の不作**。悪妻は

ろくじゅうねん

六十年の不作。

**悪妻は六十年の不作** → 悪妻は百年の不作。

**悪女の深情け** 丑婆娘送秋波，消受不得（指丑陋的女人比美女还多情，嫉妒心又强）。☆悪女の深情けとやらで、こんな執念深いお岩のようなものに、ほれられたが/真是丑婆娘送秋波，消受不得。被这样执拗的丑女人缠着，可真是…。☆悪女の深情けとやらで、彼は例の女に惚れ込まれ、弱っているようだ/俗话说丑婆娘送秋波，消受不得，那个女人爱上他了，弄得他不知如何是好。☆「彼女はこまごまと世話をやいてくれるんだが、ちと悪女の深情けの感ありさ」/「ぜいたく言うな、ばちが当たるぞ」/「她虽然对我照顾得很周到，可我总有点丑婆娘送秋波消受不得之感。」“别要求太高啦，你这样会遭报应的。”

**悪銭身に付かず** 财悖入则悖出；不义之财无久享。☆競馬で大穴を当てたが、悪銭身に付かずで、あっという間に使ってしまった/搞赛马赌博，中大空门发了财，可是财悖入则悖出，转瞬之间就花了个精光。☆「かねてうわさのA社の社長、背任横領で逮捕か。損害賠償も三億請求だって」/「あんなあくどいやり方で私腹を肥やしたんじゃ当然さ。悪銭身に付かずだよ」/「传闻已久的A公司总经理，果然因渎职侵吞公款而被捕了，听说要他赔偿三亿日元的损失。」“他用那样恶劣

的手段中饱私囊，当然该啦。不义之财无久享哟。”

[类]あぶく銭は身に付かぬ。

**悪態を吐く** あくたい 出言不逊；恶语伤人；骂街。☆「兄は読み書きが全く下手で、弟の方がよほど頭がいい」と妹は兄に悪態を吐いた/妹妹 出言不逊，骂哥哥道：“你这当哥哥的读书写字样样不行，还不如弟弟聪明。”☆酔っぱらいが往来の人に片っ端から悪態を吐いている/醉鬼对着那些过往行人逐个地乱骂一通。☆借金を断われた与太者は悪態を吐いて帰って行った/对方拒不借钱，那个恶棍就骂着街回去了。

**あくちも切れぬ** あくち 乳臭未干；黄口小儿（喻年龄尚小，没有经验）。☆あくちも切れぬものにしゃべらせれば、ずい分なことを言う/要是让那些乳臭未干的人发言，肯定会说些乱七八糟的话。☆あくちも切れぬ分際で途方もない申し出だ/黄口小儿，居然提出如此无理要求。

**悪に強ければ善にも強い** あく 作恶顶破天，从善亦拔尖；作恶恶到绝者，从善则善到顶。☆悪に強ければ善にも強いというが、あの様にも心が直るものか/真所谓作恶顶破天，从善也拔尖，原先那么坏的人居然也改好了。☆悪に強ければ善にも強いというが、すなわちあなたのことじゃ/俗话说“作恶恶到绝者，从善则善到顶”的，正是指你呀。

**欠伸を噛み殺す** あくび 忍住哈欠；强打精神。☆彼は欠伸を噛み殺しながら

裏の寝部屋から出てきた/他 强忍住哈欠，从里面的寝室里走了出来。☆校長の話を生徒は欠伸を噛み殺しながら聞いている/学生们 强打精神听着校长讲话。

[类]欠伸を噛み殺す。

**胡坐をかく** あぐら ①盘腿而坐。☆どっかと胡坐をかいて正面から葉子を見すえた/一屁股坐下，盘着腿面对面地盯着叶子。☆胡坐をかいたなり、立ち上がりも致しません/依旧盘腿坐着，连站都不站起来。②稳坐（某位置）。☆彼が社長の座に胡坐をかいていられるのもそう長くはあるまい/看来他稳坐总经理宝座的日子不会长久了。

**揚げ足を取る** あ 抓话把儿；抓辫子；挑毛病。☆ふだんはあんな風に人の前で揚げ足を取ったりするようなことはめったにないんだ/平时他很少那样在人家面前抓别人的辫子。☆ことばのはずみでちょっと言い間違えたことを、そのつど揚げ足を取っていたのでは、議事は進行しません/如果言语之间稍有口误便抓话柄的话，讨论将无法进行下去。☆「交渉する時は、もっと紳士的でありたい。人の揚げ足を取るようなやり方はフェアじゃない」/「揚げ足を取られるようなことを言う方も悪いよ」/“谈判时要 有绅士风度，要光明正大，不要随便抓人家的话把儿。”“说一些让人家抓辫子的话也不好啊。”

[类]言葉尻を捕らえる。

**挙句の果て** あげく 到了最后；最后；终于；